

～出エジプト記を読んで感じること～ (16) モーセの姉 ミリアム

ナイル河畔で、弟モーセを助けるために、機転を利かせ、賢くふるまったのが姉のミリアムです。彼女は聖書の中の最初の女預言者であり、イスラエルの民にとって、姉のような存在として、愛され、尊敬されています。預言者としてミリアムよりも先に登場するのはモーセの兄アロンです。

主はモーセに言われた。「見よ、わたしは、あなたをファラオに対しては神の代わりとし、あなたの兄アロンはあなたの預言者となる。(出エジプト7:1)

モーセは「ファラオに対して神の代わり」、アロンは「モーセの預言者」として神に選ばれます。兄弟二人一組で役割分担をし、共に働きます。ファラオは頑なで、奴隷のエジプト脱出を認めません。そこで兄弟はエジプトにあらゆる災いが引き起こされることを告げます。血、蛙、ぶよ、あぶ、疫病、はれ物、雹、いなご、暗闇、最後に初子の殺人という形で、エジプトは苦しみを味わいます。イスラエルは攻撃することで勝利を掴むようになっていきます。アブラハムにとって全能の神は「祝福」の神でしたが、モーセにとって全能の神は「撃つ」神になって行きました。そしてとうとうファラオは脱出を認めます。モーセは民と共に賛美の歌を歌います。

主よ、あなたの右の手は力によって輝く。主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。(出エジプト15:6)

モーセの姉ミリアムも出エジプト後に、女預言者として褒め称えられ、次のように記されています。



アロンの姉である女預言者ミリアムが小太鼓を手にとると、他の女たちも小太鼓を手を持ち、踊りながら彼女の後に続いた。ミリアムは彼らの音頭を取って歌った。「主に向かって歌え。主は大いなる威光を現し/馬と乗り手を海に投げ込まれた。(出15:20-21)

ミリアムはイスラエルの勝利を喜び、リーダーとなって賛美の歌を歌います。彼女にとっても神は力でした。イスラエルの律法は弱い者を守る人道的律法とされていますが、神は復讐することも記されています。

寄留者を虐待したり、圧迫したりしてはならない。あなたたちはエジプトの国で寄留者であったからである。寡婦や孤児はすべて苦しめてはならない。もし、あなたが彼を苦しめ、彼がわたしに向かって叫ぶ場合は、わたしは必ずその叫びを聞く。そして、わたしの怒りは燃え上がり、あなたたちを剣で殺す。あなたたちの妻は寡婦となり、子供らは、孤児となる。(出エジプト22:21-23)

<ミリアム> Dormition 僧院 のモザイク(エルサレム)

ミリアムはアロンと共にクシュ(エチオピア)の女を妻としていると言ってモーセを非難したことがありました。モーセの妻の肌の色、また、イスラエル人ではないことを口実にしたのです。

さらに彼らはモーセだけでなく自分たちを通して神は語られると言ってリーダーシップ争いを始めたのです。その時神は「モーセは直接神の姿を見、声を聞いた人。それに対して、ミリアムたちは幻、夢、謎によって神の言葉を理解するのみだ。なぜモーセを非難するのか」と憤り、ミリアムに重い皮膚病の試練を与えられ、ミリアムの皮膚は雪のように白くなったとされています。モーセのとりなしによって病は癒されても、ミリアムは義妹を差別したこと、また、高慢に自分の力を過信したことを恥じて7日間宿営の外で隔離されて、過ごさざるを得ませんでした。ミリアムはモーセがひたすら謙遜に神に従った人であり、一度たりとも神に対して不平を言ったことはない人であることを再確認したでしょう。兄弟思いの姉、喜び、歌う預言者、先頭に立って活躍する指導者、率直な物言いをする人、試練に耐える人などいろいろな面で、ミリアムは人間的魅力を持っています。こんなミリアムを慕って、すべての人が、ミリアムが回復して、戻るのを待っていたと記されています。ミリアムは旅の途中でツインの荒野で、死に、埋葬されました。